

洗足ウインド・シンフォニー演奏会

2022年11月15日（火）

19：00開演 18：30開場

洗足学園 前田ホール

主催： 洗足学園音楽大学

ご挨拶

本日は、洗足学園音楽大学ウインド・シンフォニー 後期演奏会に、ご来場、ご視聴下さいましてまことにありがとうございます。

洗足ウインド・シンフォニーは、洗足学園音楽大学を代表するバンドとして今年の春から、上級生により編成されました。

そして、様々なイベントやコンサートを経験してきた中で、着実にアンサンブル能力を高め、今宵のコンサートで一年を締め括ります。

その一年間を締め括るプログラムとしまして、吹奏楽の本場アメリカで重要なレパートリーとされている作品を中心に聴いていただきます。

また、指揮者に本学の芸術監督である秋山和慶先生をお迎えし本格的な音楽を皆様にお届けします。

どうか、最後までごゆっくりとお楽しみ下さい。

併せて、本公演にご協力下さいました皆様方に厚く 御礼申し上げます。

洗足ウインド・シンフォニー 責任者 池上亘

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

PROGRAM

● A.マクリス／エーゲ海 フェスティバル序曲

ANDREAS MAKRIS / AEGEAN FESTIVAL OVERTURE

● V.パーシケッティ／吹奏楽のためのディヴェルティメント

VINCENT PERSICETTI / DIVERTIMENTO FOR BAND OP.42

I プロローグ II ソング III ダンス IV ソリロクイ(独り言) V マーチ

● A.シェーンベルク／主題と変奏 OP.43A

ARNOLD SCHOENBERG / THEME AND VARIATIONS OP.43A

～～休憩～～

● J.マッキー／ザ・ナイトガーデン

JOHN MACKKEY / THE NIGHT GARDEN

● J.ジルー／交響曲第4番「ブックマークス・フロム・ジャパン」

JULIE GIROUX / SYMPHONY NO. IV BOOKMARKS FROM JAPAN

I 富士山 II 日本橋 III 神奈川沖浪裏 IV 浅草金龍山 V 蒲原 夜之雪 VI 箱根

PROGRAM NOTE

A.マクリス／エーゲ海 フェスティヴァル序曲

この楽曲は、もともとオーケストラのための楽曲で、1967年にワシントン・ナショナル交響楽団のためにオーケストラ序曲として書かれ、翌年にコンスティテューション・ホールでハワード・ミッチェル指揮の同楽団によって初演された。その直後とツアーでの成功をきっかけに、マクリスとアメリカ空軍バンドのアルバート・ベイダー少佐（当時）が共同で、この序曲を吹奏楽編曲することになった。吹奏楽版の初演はアーナルド・ゲイブリエルの指揮、アメリカ空軍音楽隊によって行われた。※

この楽曲は、最初の付点8分音符のリズムから、作曲者の出身地であるギリシャを反映していて、古典的な形式とギリシャの民謡的な要素を融合させたマクリスの音楽スタイルを象徴している。

※吹奏楽用の編曲にあたっては、元々原曲が13分程に対して、10分程に再編され、一部拍子や、アーティキュレーションの変更等、吹奏楽で演奏しやすいように整えられた。 打楽器専攻2年 松田 有平

V.パーシケッティ／吹奏楽のためのディヴェルティメント

ヴィンセント・パーシケッティ(1915-1987)はアメリカ ペンシルベニア州、フィラデルフィア出身の作曲家。5歳からピアノを習い、その後オルガン、コントラバス、チューバ、理論、作曲というようにさまざまな音楽分野を学び、14歳には初めてとなる2作品を発表している。

吹奏楽(バンド)のための作品だけでなく、9つの交響曲や様々な室内楽のための作品、ピアノ協奏曲、声楽曲、バレエ音楽、管弦楽作品、ソロ・ソナタ(チェンバロのための作品もある)など、音楽を幅広く学び経験したパーシケッティならではの作曲をおこなった。

「ディヴェルティメント」はオーケストラ作品として作曲され始めたが、途中からバンドの可能性を強く感じ弦楽器は必要ないと考えバンドのための作品として作曲が進み、パーシケッティがコンサートバンドのために作曲した初めての作品となった。1950年にゴールドマン・バンド(1918年に設立されたアメリカの吹奏楽団)によって、パーシケッティ自身の指揮により初演された。

パーシケッティはそれまで多くの人が大衆娯楽としてみていた『バンド』の芸術的可能性を感じ、同じ音楽院の作曲家の同僚たちに吹奏楽のための作品を作曲するように説得をしていたそうだ。

ディヴェルティメントは5つの楽章、木管楽器、金管楽器、ティンパニ奏者たちが対話している様子から着想を得て作曲した、勢いのある掛け合いからはじまる「プロローグ」、流れるような各楽器のソロが続く「ソング」、ピッコロのメロディーが際立つ「ダンス」、美しいホルネットソロが魅力的な「ソリロクイ（独り言）」、疾走感やエネルギーに満ちた「マーチ」から成っている。 フルート専攻3年 池田 徳羽子

A.シェーンベルク／主題と変奏 Op. 43a

1943年、アルノルト・シェーンベルクは、親友でG.シャーマー・ミュージックの社長であるカール・エンゲルから高校生のバンドでも演奏可能な吹奏楽曲をとの依頼を受け、吹奏楽曲として「主題と変奏」が作曲され、1944年に管弦楽に編曲された。オリジナル吹奏楽版に作品43a、管弦楽版に作品43bが付けられている。吹奏楽曲としてはシェーンベルク唯一の作品ではあるが、西洋音楽の古典的作曲技法に通じたシェーンベルクらしい堅固な変奏が繰り広げられる一曲である。

しかしこの作品は、シェーンベルク自身にさえ重要な作品とは見なされておらず、ことに管弦楽版は演奏される機会も少ない。実用的かつ芸術的に意義のあるものと考えていた。1944年にフリッツ・ライナーへの手紙の中でこの作品について、「これは私の主要な作品の一つではない、なぜなら12音で構成されていないからだ。これは、自分自身のヴィルトゥオージティを楽しむために、また一方で、ある種の音楽愛好家たち（ここではバンド）に何かいい演奏をさせるために書いた曲の一つである。この曲は技術的に傑作だと断言できるし、それを証明できると思っている」と述べている。技法面での出来ばえと独創性には自信があり、また楽しく作曲したとの旨を記した。

構成は主題と7つの変奏、フィナーレの9つの部分から成っている。主題は自作によるものであるが、提示の段階から複数の楽器に受け渡されながら奏され、様々な対旋律を伴って演奏される。また、主題自体が細かい要素に分解することができ、それらの要素を素材とし全曲に渡って展開が行われる。各パートに現れる旋律は時に断片的であり、それらの集積として一本の線となる。あるいは多数の線に発展しそれらが複雑に絡み合う。そうした西洋音楽の古典的な変奏曲をそのまま踏襲している。

トランペット3年 鈴木 ころろ

J.マッキー／ザ・ナイトガーデン

ジョン・マッキーのザ・ナイトガーデンは、2017年 洗足学園音楽大学 洗足ウインド・シンフォニーの委嘱作品である。

作品は緩やかな標題音楽的な方法で、人間に干渉されない遅い夜の自然の振る舞いを表現することで、作曲家の言葉にある通り、タイトルのイメージはこの作品を創る時に普通とは違うインスピレーションを与えてくれたのである。その題名に基づきマッキーはさまざま試みを取り入れており、鍵盤打楽器は蛍の光のように、フルートの部分はトンボの羽ばたきのように、ギロという打楽器ではウシガエルがゲロ・ゲロと泣くようにイメージしているようだ。

マッキーにとって、魅了し、感動させるような作曲技法の革新を取り入れ、色々な点で様式が従来と異なっている。断片的なテクニックの盛り上がりや短時間でのドラマチックな色の変化をするような強弱法の代わりに、作品全体としては伝統的なメロディーはほとんどなく厚いテクスチャーである。

このように、ザ・ナイトガーデンは典型的な21世紀音楽というよりも、むしろ筆運びが顕著な活気ある風景画のような印象派の絵画である。

参考文献 (洗足ウインド・シンフォニー演奏会(2017年12月3日)プログラムノートより)

クラリネット専攻2年 鈴木 潤

ジュリー・アン・ジルーはアメリカの作曲家である。100以上の映画、テレビ、ビデオゲームのクレジットを持ち、エミー賞では「音楽演出における優れた個人業績」の分野で個人賞を受賞。この受賞は女性初、最年少での受賞となった。2009年には女性初の作曲家としてアメリカン・バンドマスターズ・アソシエーションの会員となる。

この作品はインディアナ大学名誉教授レイ・クレイマー夫妻からプレゼントされた6つの葉から着想された交響曲である。葉には日本の代表的な浮世絵が描かれていてそれぞれが楽章の主題となっている。

I 富士山

葛飾北斎「富嶽三十六景」中の「凱風快晴」別名「赤富士」を使用した葉から生まれた楽章。この楽章は富士山を包む霧と雲が時間の経過と共に徐々に晴れていく風景を基にしている。曲が進むにつれて、まとまりや力強さが表れ、富士山が完全に姿を表すフィナーレを迎える。

II 日本橋

歌川広重「東海道五十三次」中の「日本橋」を使用した葉から生まれた楽章。江戸から京都へ向かう東海道の起点となる日本橋。絵の中には参勤交代の大名行列で朝早く江戸を出発する列や魚を天秤棒で担いだ一団が行商に出かける様子が描かれている。この楽章もそんな江戸の街の様子が浮かぶ賑やかな印象である。

III 神奈川沖浪裏

葛飾北斎「富嶽三十六景」中の「神奈川沖浪裏」を使用した葉から生まれた楽章。この楽章は単体の波が、日に照らされて輝く海から生まれ、岩場にぶつかるまでが描かれている。曲の始まりは木管群の16分音符の三連符の変奏により穏やかな海が表される。次にトロンボーンとホルンの旋律の提示にトランペットが加わり最初の大波を描いている。そのままバンド全体がうねりの動きになりピークを迎える。

IV 浅草金龍山

歌川広重の「浅草金龍山」を使用した葉から生まれた楽章。倒壊と再建が、繰り返され何世紀にも渡り建ち続ける雷門。その長い歴史と荘厳さが力強く表された楽章である。

V 蒲原 夜之雪

歌川広重「東海道五十三次」中の「蒲原 夜之雪」を使用した葉から生まれた楽章。歌の形式の楽章でやわらかくゆっくりとした進行となっている。ピアノ・ハープ・アルトフルートのソロで始まる。旋律はシンプルだが心に残るものがあり、ゆっくりと奏者を増やしながらか進んでいく。そして冒頭と同じ三つの楽器のソロで静かに終わりを迎える。

VI 箱根 - “ドリフティング”

歌川広重「東海道五十三次」中の「箱根宿」を使用した葉から生まれた楽章。Julie Girouxは箱根の調査を始めた時全く創作意欲が湧かなかった。ただのカーブとスイッチバックの多い街という印象しか得なかった。しかし地図で実際道路の形を見た時にジルーは以前この道路を見たことを思い出した。ジルーは熱狂的なゲーマーで箱根は以前ゲームの中で運転した事がある場所だった。この楽章には"Drifting"という副題が付けられているのもジルーの予測不可能な動作や、可笑しなことをする速い車への愛が反映されている。この楽章を通して箱根をドリフトする車が目に浮かぶような爽快感と可笑しさのある楽章である。



秋山 和慶 (指揮)

KAZUYOSHI AKIYAMA

齋藤秀雄のもとで指揮法を修め、
1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。
1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューののち
同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。

トロント交響楽団の副指揮者、アメリカ響音楽監督、
バンクーバー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキュース
音楽監督を歴任。フィラデルフィア管、 ニューヨーク・フィル、
ボストン響、クリーヴランド管、シカゴ響、ロイヤル・フィル、
NDR北ドイツ放響、ケルンWDR放響、ベルリン放響、
スイス・ロマンダ管、チューリッヒ・トーンハレ管などに客演
している。

これまでにサントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、
大阪府民劇場賞、大阪芸術賞、川崎市文化賞をはじめ、
東京交響楽団とともに毎日芸術賞、京都音楽賞大賞、
モービル音楽賞などを受賞。

2001年紫綬褒章、2011年旭日小綬章を受章。
2014年度文化功労者に選出。同年中国文化賞(広島)、
徳島県表彰特別功労賞を受賞、2015年渡邊暁雄音楽基金
特別賞を受賞。2014年指揮者生活50年を迎え、
2015年2月には回想録

「ところで、きょう指揮したのは？」

(共著／アルテスパブリッシング刊) を出版した。

現在、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者
日本センチュリー交響楽団ミュージックアドバイザー、
東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、
九州交響楽団桂冠指揮者など多くの任を務めるほか、
洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学
客員教授を務めている。

洗足ウインド・シンフォニー Member

Concert mistress	磯崎 優香				
Flute	梅崎 真綾	榊原 里來	町田 花音	池田 徳羽子	菊地 晃空
	山上 智寛	鈴木 ぴあ乃			
Oboe	奥野 彩	小中 ひかる [#]	中村 穂波 [#]		
Clarinet	磯崎 優香	木下 舞香	二階堂 希美	鈴木 潤	高橋 美乃
	山口 真央	末光 はるか [♪]	石井 綾菜 [#]	杉田愛実 [#]	松本 玲香 [#]
	山形 珠慧 [#]	日下 翔太 [#]	吉川 清香 [#]		
Bassoon	及川 夏海	渡邊 陽南	殿村 和也 [#]		
Saxophone	伊藤 輝瞳	兼田 柊子	久米 愛海	重井 拓人	清水 建吾
	田中 亜耶	米田 諒士	矢澤 亘	鈴木 ましろ	中原 雄太郎
	伊藤 有莉愛	近藤 空	平野 未紗	山岸 芽以	
Trumpet	芦川 大樹	磯野 沙弥	高木 美雨	冨永 倫	檜山 沙南
	細谷 侑生	溝口 大輔	大津 泰	五月女 啓太	鈴木 ころろ
	藤原 くるみ	秋山 凜音	星野 花織	吉井 絵理果	
	LIN GUANGLUE				
Horn	浅田 万結	山口 亜希菜	石野 奈々	直田 真潮	山本 海音
	高良 知里				
Trombone	小森 豊生	篠塚 裕太	神野 葵	小野 航	川上 奏太郎
	永野 宏弥	本間 千尋	松田 真凜	森田 堅人	
Euphonium	市村 結衣	上柳 創大	清水 榛菜	荒木 優奈	
Tuba	齊藤 徹也	吉田 怜生	渡部 陽菜	遠藤 愛奈	長谷川 夏帆
	鈴木 颯	南迫 奏太			
Percussion	江原 和紀	小野寺 俊介	栃下 紗奈	中田 実紅	横木 秀真
	熊谷 彩夏	小山 梓	佐山 果凜	宗像 桃子	相川 拓音
	鏑木 舜裕	林 まど子	松田 有平	吉田 創	
String Bass	當仲 絵理 [♪]	嶋野 晴斗 [♪]			
Piano	茂山 瑤 [#]				
Harp	大隅 レオナ [#]				

[#]=演奏補助要員 [♪]=賛助出演

Director	池上 亘				
Associate Director	滝澤 尚哉				
Trainer	前田 綾子	丸田 悠太	渡部 亨	田淵 哲也	有馬 理絵
	松本 健司	中田 小弥香	大貫 比佐志	貝沼 拓実	田中 拓也
	大城 正司	勝俣 泰	久永 重明	中山 隆崇	林 辰則
	本間 千也	篠崎 卓美	府川 雪野	岩黒 綾乃	次田 心平
	石井 喜久子	秋田 孝訓	竹島 悟史		